

エジプト 日本向けにナツメヤシの実を輸出

FreshPlaza 2025年8月28日

エジプトのメジュール品種のデーツ(ナツメヤシの実)の2025/26年度の出荷シーズンが間近に迫っている。パームヒルズデーツ社の輸出マネージャーであるラマダン・エルサイヤド氏によると、生産者らは、今年の栽培面積の着実な成長と穏やかな気象条件のおかげで、昨シーズンと比較して生産量が大幅に増加し、品質が向上したことを喜んでいる。

ラマダン氏は今年の生産条件を振り返り、「天候はかなり改善し、昨シーズンの砂嵐のような問題には遭遇していない。受粉は大変順調であった。生産者達は、場所の選定や灌漑、施肥、灌漑施肥などの適切な農場運営の採用に関して、時間の経過とともに確かな経験と深い知識を身につけてきたことは言及しておかなければならない。栽培面積の拡大は全般的によく考えられ、実行されている」と話す。(以下「」は同氏の話)

一方、業界関係者らによれば、今シーズン収穫されるサイズは主に中玉及び大玉であり、ジャンボ及びスーパージャンボのデーツは少ない。「今シーズンの最も一般的なサイズは中玉、大玉、それにジャンボであり、1果重は14～23グラムの範囲である。」

同輸出業者によれば、エジプト産メジュールデーツの業界は年間生産量10万トンの大台に急速に近づいている。「全国的には、昨シーズンの2万トンから今シーズンは約5万トンに増加した。10万トンという象徴的な大台に到達するのは時間の問題であり、長くても数カ年以内である。これは本分野の成長と生産者にとっての魅力、さらに国際市場におけるエジプト産メジュールデーツの好評を反映している。」

ラマダン氏によれば、エジプトは競合国よりも有利な立場にあり、次のシーズンは商業的観点から有望である。「エジプト産のデーツは、世界中の消費者の間で高まるメジュール品種の人気を最大限に活用している。他の生産国もレベルを上げて健闘しているが、エジプトに比べて数量が少ない、ナミビアのように出荷時期が異なる、イスラエルのように地政学的な問題を抱えているなどの理由により、競争は比較的穏やかである。」

「例えば、弊社では、従来からのヨーロッパ及び北米の市場で旺盛な需要を維持しているのに加え、今シーズン初めて日本、オーストラリア、アルゼンチンにメジュールデーツを輸出している。また、中国への輸出量の増加も見込んでいる。また、今シーズンもヨーロッパ市場での地位を強化しており、オランダのスキポール空港に近い新たな流通ハブを契約することで果実が店頭の棚に近づき、ヨーロッパでの競争力を高めている。エジプトの新規の輸出業者も毎年本分野に参入しており、様々な新市場の扉を叩いている。」

同氏によれば、東アジア市場への参入は同社にとって重要なステップである。「それはメジュールデーツが既によく知られ、需要がある市場である。弊社は今シーズン、ある日本企業を通じて参入するが、同社はフルーツロジスティカの弊社のブースを訪れ、アジア市場のニーズを理解する上で大いに貢献してくれた。日本では健康食品を求める消費者の傾向が衰えることなく続いており、メジュールデーツもそのように認識されている。また、日本の消費者は大玉を好む傾向があることも理解した。取引相手の日本の輸入業者は、デーツを種子付きのまま大量に輸入し、現地で調製・再梱包するB2Bのアプローチを好む。」

「今シーズン、日本とオーストラリアに進出した後、東南アジアとオセアニアの市場をさらに開拓する計画であり、ジャカルタで開催されるSIALインターフード見本市に今年初めて参加する。」

執筆者: ユーネス・ベンセド

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)